

日中友好青年の翼に参加して

もう一度

行きたい国

小形山 堀内 和子

成都 天縫銅館工場。ガシャーン、ガシャーン、ドツドツという人の声をかき消すものすごい音、埃と油の匂い真赤な鉄の塊り。私は今年始めに見た映画「メトロポリス」を思い出し、そのBGMがいつのまにか耳の中にこだましていた。そして、サントリールのコマーシャルも思い出した。

働いているお兄さんが好きですか、遊んでいるお兄さんが好きですか。織物工場では、「ああ、野麦峠」を思い出してしまいました。

ここで働く人々の食事はどうなのか、目は悪くならないか、埃の中で肺は悪くならないか、そんなことばかりが気になった。品物の単価の安い理由はここにあるのでしょうか？かつての日本もこうだったのでしょうか？今まで考えたようにもせず、無視していた事柄が頭の中に、ポーと浮か



鳥取市から国体旗が届く

「わかとり国体」のバスケット会場だった鳥取県鳥取市から「かいじ国体」同競技会場の都留市へ11月19日代表が訪れ、国体旗の引き継ぎ式が行われました。

んできた。私は、いつの日も、政治や経済、対世界、国際問題云々、そういうものにとんと興味をもっていないかった。でも、このような見学地や通りすがりに見た町並、そして十三日間いっしょだった仲間たちのもっている様々な考えの中から、私の空虚な脳の中に、そよそよと風がふきはじめていく気がした。「私も少し考えて見る必要がありそうだな。」と。



▲天安門広場にて

影の力を

持つ国

境 白井 純子

訪中の旅を終えて、今一番印象に残っている事は、表面に現われていない影の力を持っている国という事です。一見、のんびり、ゆったり、そして質素に生活している人々とはうらはらに、大きな核シェルターを持ち、食糧生産の充実などを見ると、とてつもない社会主義国の力を感じました。国営織物工場では、郡内で使っているのと全く同じ機械が、うす暗い中に何十台も並べられ、裸電球一つの下で、一人が何台も織っているのにはビックリしました。賃金が安い上、労働設備も整

っていないのでは、日本の機業が吸収されても無理はなく、そんな姿を目の当りにしてきました。

交流のメインである西都では、中曽根首相靖国神社参拝の反対デモがあった為、西川大学訪問が出来ず大変残念であったと同時に、政治的影響を直接受けた事に日本の代表団である事を再確認しました。又、この都市でも受け入れは、仕事として行われ、日本の様にボランティア活動として参加している人がいなかった事は、大変淋しい思いがしました。

街角でアンケートを取り始めると、あつという間に人だかりになり、聞いてはいましたが、日本語や英語を話せる人が多かった事にはビックリしました。聞いてみると、ラジオを使って独学の人が殆どでした。地味な生活をしているながらも、母国語の他に外国語を学ぼうとする意欲には未だ恐ろしさを感じました。こうして旅行を無事終えて帰国してみると、たった十三日間でも中国を訪れた事により、「中国」に関しての色々な事が、とても身近に感じられる様になった事は、大きな収穫でした。